

平成 18 年度障害者自立支援調査研究プロジェクト報告書

社会福祉法人 尾道のぞみ会
理事長 高垣 孔幸

〒722-0042

広島県尾道市久保町 92-2

「働きたいが、自信がない。また受け皿がない。」という障害者に農業という働く場を提供し、小さな成功体験を積み重ねてもらうことで、自信と誇りや経済的基盤を獲得していただくことを目的に、地域にある、休耕田を活用し、また近隣農家の方のご指導、ご協力をいただきながら、障害者に農業を体験していただいた。運搬車両を 1 台整備して、より多くの方が農作業に参加できるようになった。自然の中で作業することで、より健康になられている。ビニールハウスを立てることで、より作物の幅が広がり、(付加価値の高い野菜の生産が可能) また天候に左右されない作業も可能となった。さまざま農機具の整備により、効率的な作業が可能となり、耕地面積を増やすことができた。

自分たちで作った農作物を販売するために、直売市を設置して、作物は野菜を中心に水稲などを収穫し、販売、輸送、経理等も障害者が可能な範囲で担当した。また直売市では協力農家からも野菜を持ち寄っていただき、品揃えを整え、地域交流をはかった。さらに地域住民の方の来店数も徐々に増えて、地域の中において、認知度も高まり、日常的に多くの人が入り出りされて、施設の社会化が図れた。施設の雰囲気も開放的となり、利用者の方の表情も明るくなった。また地域の方からの様々なアイデアもいただける環境となった。このように地域からのご理解をいただけたことはこの事業にとって非常に大きな成果であったと考える。

販売用車両の活用については、直売市の来客数が少ない時間帯から、商品の鮮度が落ちないうちに、施設外に販売に出ている。高齢化がすすんだ団地では、なかなか買い物に出かけられないご老人も居られて、好評である。まだまだ始めたばかりで販売場所の新規開拓に努めているところである。利用者の方もこの外部販売に積極的に参加されて、社会参加の機会をより多くもつことができた。

このように売れ残りの商品を少なくすることによって、無駄のない販売を心がけている。今後さらに店舗面積を広げて、売り上げを伸ばしていきたい。また、商品を提供してくださる地元企業との関係性を築き、一般就労への道が開拓できると思われる。